



J

JA

AV レシーバー

RX-V385

スタートアップガイド

ご使用になる前に	2
安全上のご注意	2
お知らせ	8
はじめに	9
1 準備する	9
2 スピーカー/サブウーファーを接続する	10
3 外部機器を接続する	12
4 FM/AMアンテナを接続する	13
5 電源コードを接続し、本機の電源を入れる	14
6 スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)	15
再生する	17
基本的な操作	17
BD/DVD を再生する	18
FM/AM ラジオを聴く	18
SCENE 機能	19
Bluetooth 機器の曲を再生する	19
USB 機器の曲を再生する	20
オプションメニューの基本的な操作	20
設定メニューの基本的な操作	21
困ったときは	22

ご使用になる前に

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずよくお読みください。

必ずお守りください

ここに示した注意事項は、機器を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

「警告」「注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。

記号表示について

この機器や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

注意喚起を示す記号



禁止を示す記号



行為を指示する記号



- 点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または取扱説明書記載の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。
- データが破損したり失われた場合の補償や、不適切な使用や改造によりお客さまがけがをしたり機器が故障したりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 本製品は一般家庭向けの製品です。生命や高額財産などを扱うような高度な信頼性を要求される用途に使用しないでください。



警告

「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

電源 / 電源コード



禁止

電源コードが破損するようなことをしない。

- ストーブなどの熱器具に近づけない
- 無理に曲げたり、加工しない
- 傷つけない
- 重いものをのせない

芯線がむき出しのまま使用すると、感電や火災の原因になります。



禁止

落雷のおそれがあるときは、電源プラグやコードに触らない。
感電の原因になります。



必ず実行

電源はこの機器に表示している電源電圧で使用する。
誤って接続すると、火災、感電、または故障の原因になります。



必ず実行

電源プラグを定期的に確認し、ほこりが付着している場合はきれいに拭き取る。
火災または感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。
万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないかぎり電源から完全に遮断されません。



雷が鳴り出したら、早めに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

火災や故障の原因になります。



長期間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

火災や故障の原因になります。

分解禁止



この機器を分解したり改造したりしない。

火災、感電、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。

水に注意



- この機器の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
- 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところや水がかかるところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、火災や感電、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。また、ぬれた手でこの機器を扱わない。

感電や故障の原因になります。

火に注意



この機器の近くで、火気を使用しない。

火災の原因になります。

お手入れ



清掃用や潤滑用などの可燃性ガスのエアゾールやスプレーを使用しない。可燃性ガスが本機の内部に留まり、爆発や火災が発生するおそれがあります。

乾電池



乾電池を分解しない。

乾電池の中のものに触れたり目に入ったりすると、失明や化学やけどなどのおそれがあります。



乾電池を火の中に入れない。

破裂により、火災やけがの原因になります。



乾電池を日光や火のような高温に晒さない。

破裂により、火災やけがの原因になります。



使い切りタイプの乾電池は充電しない。

充電すると破裂や液漏れの原因になり、失明や化学やけど、けがなどのおそれがあります。



乾電池が液漏れした場合は、漏れた液に触れない。

失明や化学やけどなどのおそれがあります。万一液が目や口に入ったり皮膚についたりした場合は、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。

ワイヤレス機器



医療機器の近くなど電波の使用が制限された区域で使用しない。

この機器が発生する電波により、医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。



心臓ペースメーカーや除細動器の装着部分から 15cm 以内で使用しない。
この機器が発生する電波により、ペースメーカーや除細動器の動作に影響を与えるおそれがあります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

下記のような異常が発生した場合、すぐにアンプやレシーバーの電源を切る。

- 電源コード / プラグが傷んだ場合
- 機器から異常なおい煙が出た場合
- 機器の内部に異物が入った場合
- 使用中に音が出なくなった場合
- 機器に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。



必ず実行

この機器を落としたり、強い衝撃を与えたりしないように注意する。落とすなどして破損したおそれのある場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



注意

「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

電源 / 電源コード



禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントを使用しない。
火災、感電、やけどの原因になります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積したりして火災ややけどの原因になります。

設置



禁止

不安定な場所や振動する場所に置かない。

この機器が落下や転倒して、けがや故障の原因になります。



禁止

この機器の通風孔（放熱用スリット）をふさがない。

内部の温度上昇を防ぐため、この機器の天面 / 側面 / 底面には通風孔があります。機器内部に熱がこもり、火災や故障の原因になります。



禁止

この機器を設置する際は、

- ・布やテーブルクロスをかけない。
- ・じゅうたんやカーペットなどの上には設置しない。
- ・天面以外を上にして設置しない。
- ・風通しの悪い狭いところへは押し込まない。

機器内部に熱がこもり、火災や故障の原因になります。本機の周囲に上 30cm、左右 20cm、背面 20cm 以上のスペースを確保してください。



禁止

塩害や腐食性ガスが発生する場所に設置しない。

故障の原因になります。



禁止

地震など災害が発生した場合はこの機器に近づかない。

この機器が転倒または落下して、けがの原因になります。



必ず実行

この機器を移動する前に、必ず電源スイッチを切り、接続ケーブルをすべて外す。

ケーブルを傷めたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

屋外アンテナの取り付け工事は、必ずお買い上げの販売店または専門の工事業者に依頼する。

機器が落下して、けがや破損の原因になります。

工事には、技術と経験が必要です。

聴覚障害



禁止

大きな音量で長時間ヘッドホン / スピーカーを使用しない。

聴覚障害の原因になります。異常を感じた場合は、医師にご相談ください。



必ず実行

・ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行う。

・電源を入れたり切ったりする前に、必ずこの機器の音量（ボリューム）を最小にする。

聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になることがあります。



必ず実行

オーディオシステムの電源を入れるときは、この機器をいつも最後に入れる。電源を切るときは、この機器を最初に切る。

聴覚障害やスピーカーの損傷の原因になることがあります。

お手入れ



必ず実行

お手入れをする前に、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電の原因になることがあります。

取り扱い



禁止

この機器の通風孔に手や指を入れない。

けがの原因になります。



禁止

この機器の通風孔から金属や紙片などの異物を入れない。

火災、感電、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

小さな部品は、乳幼児の手の届くところに置かない。

お子様が誤って飲み込むおそれがあります。



禁止

以下のことをしない。

- この機器の上に乗る。
- この機器の上に重いものを載せる。
- この機器を重ねて置く。
- ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加える。
- この機器にぶら下がる。
- この機器に寄りかかる。

けがをしたり、この機器が破損したりする原因になります。



禁止

接続されたケーブルを引っ張らない。

接続されたケーブルを引っ張ると、機器が転倒して破損したり、けがをしたりする原因になります。

乾電池



禁止

乾電池は新しいものと古いものを一緒に使用しない。

乾電池は一度に全部を交換してください。新しいものと古いものを一緒に使用すると、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。



禁止

指定以外の電池を使用しない。

火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。



禁止

種類の異なる乾電池を一緒に使用しない。

アルカリとマンガンと一緒に使用したり、メーカーまたは品番の異なる電池と一緒に使用したりすると、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。



禁止

乾電池は乳幼児の手の届くところに置かない。

お子様が誤って飲み込むおそれがあります。また、電池の液漏れなどにより炎症を起こすおそれがあります。



禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液漏れにより、火災やけがの原因になります。



必ず実行

乾電池はすべて +/ - の極性表示どおりに正しく入れる。

正しく入れていない場合、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。



必ず実行

長時間使用しない場合や乾電池を使い切った場合は、乾電池をリモコンから抜いておく。

乾電池が消耗し、乾電池から液漏れが発生し、炎症やリモコンの損傷の原因になります。



必ず実行

乾電池を保管する場合および廃棄する場合には、テープなどで端子部を絶縁する。

他の電池や金属製のものと混ぜると、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。

注意

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、また環境保護のため、お守りいただく内容です。

電源 / 電源コード

この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。⓪（スタンバイ / オン）スイッチを切った状態（画面表示が消えている）でも微電流が流れています。

設置

テレビやラジオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。この機器またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。この機器のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。

他の電気製品とはできるだけ離して設置してください。

この機器はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

無線ネットワークを使用する場合は、金属製の壁や机、電子レンジ、他の無線ネットワーク機器の近くへの設置を避けてください。

遮蔽物があると通信可能距離が短くなる場合があります。

接続

外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。

説明に従って正しく取り扱わない場合、故障の原因となります。

業務用機器とは接続しないでください。

デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

取り扱い

この機器上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。この機器のパネルが変色 / 変質する原因になります。

機器の周囲温度が極端に変化して（機器の移動時や急激な冷暖房下など）、機器が結露しているおそれがある場合は、電源を入れずに数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。結露した状態で使用すると故障の原因になることがあります。

お手入れ

極端に温湿度が変化すると、この機器表面に水滴がつく（結露する）ことがあります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。

手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナーなどの薬剤、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色 / 変質する原因になります。

電池

使用済みの乾電池は、各自治体で決められたルールに従って廃棄しましょう。

お知らせ

製品に搭載されている機能 / データに関するお知らせ

- この製品は、日本国内専用です。
- この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- ・この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。
- ・本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- ・ソフトウェアは改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- ・この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- ・万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

本機の無線方式について

(Bluetooth)

2.4 FH 1

「2.4」：2.4 GHz 帯を使用する無線設備

「FH」:変調方式は周波数ホッピング(FH-SS方式)

「1」：想定干渉距離が 10 m 以内

■■■■ ■■■■ ■■■■：全帯域を使用し、かつ移動体
識別装置の帯域を回避可能

本機は、電波法に基づく認証を受けた無線機器を搭載しています。

はじめに

- ・本機は、ご家庭で映像や音声を楽しむための製品です。
- ・本書では、基本的なスピーカーシステムの設置と本機の設定を手順に沿って案内しています。さらに、BD/DVD の再生やラジオ放送の受信など、基本的な操作についても説明しています。

本書で使用している商標については取扱説明書をご覧ください。

本機の機能

本機には、本書でご案内している以外に以下のような機能があります。取扱説明書をご覧ください。本機の性能を十分にご活用ください。

- ・ **エコ機能で消費電力を低減する**
- ・ **テレビ、AV レシーバー、BD/DVD レコーダーの連動操作する（HDMI コントロール）**
- ・ **システム設定を変更する（アドバンスドセットアップメニュー）**

詳しくは取扱説明書の「本機でできること」をご覧ください。
取扱説明書の PDF 版は以下のウェブサイトからダウンロードできます。

<http://download.yamaha.com/jp/>



AV SETUP GUIDE

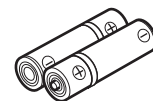
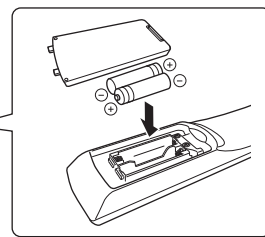
「AV SETUP GUIDE」は AV レシーバーとテレビ、プレーヤーなどの再生機器との接続、スピーカーとの接続をわかりやすくガイドするアプリです。詳しくは、App Store または Google Play で「AV SETUP GUIDE」を検索してください。

1 準備する

付属品を確認する



リモコン



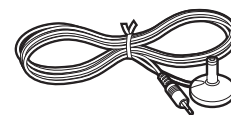
単 4 乾電池（2 本）



AM アンテナ



FM アンテナ



YPAO 用マイク

取扱説明書

スタートアップガイド（本書）

ケーブルを用意する

本書の説明どおりに接続する場合、以下のケーブルを別途でご用意ください。

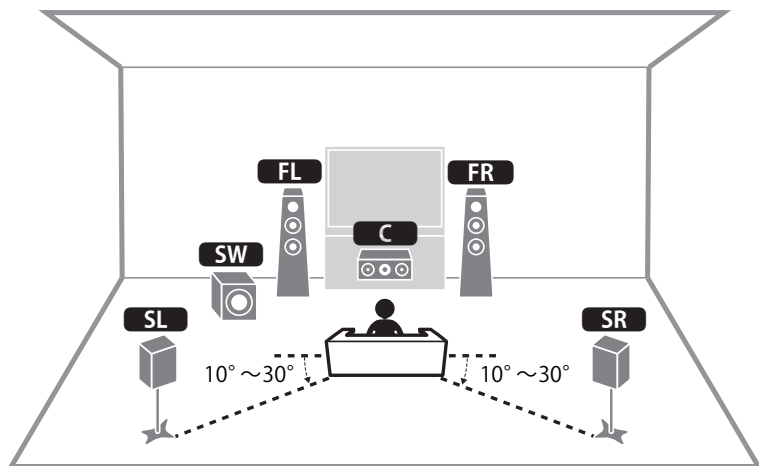
- ・ スピーカーケーブル（スピーカーの本数分）
- ・ モノラルピンケーブル（1 本）
- ・ HDMI ケーブル（3 本）

2

スピーカー / サブウーファーを接続する

スピーカーの配置

図を参考にスピーカーを配置してください。

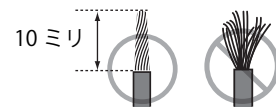


- FL** フロントスピーカー (左)
- FR** フロントスピーカー (右)
- C** センタースピーカー
- SL** サラウンドスピーカー (左)
- SR** サラウンドスピーカー (右)
- SW** サブウーファー

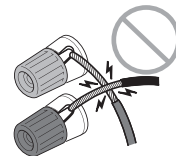
スピーカーケーブル接続時のご注意

- 本機の電源は入れないでください。また、サブウーファーの電源を切ってください。
- スピーカーケーブルの加工は本機から離れた場所で行ってください。スピーカーケーブルの芯線の切りくずが本機内部に入ってショートし、故障の原因となります。
- 誤った方法で接続すると、スピーカーケーブルがショートし、本機やスピーカーが故障する原因となります。

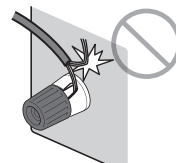
– スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を約 10 ミリはがし、芯線の先端をしっかりとよじる



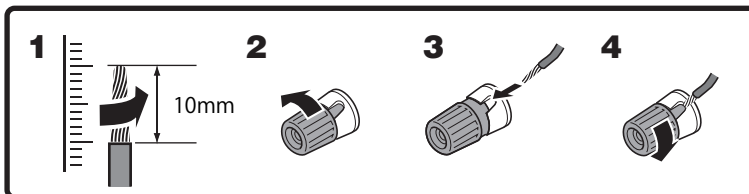
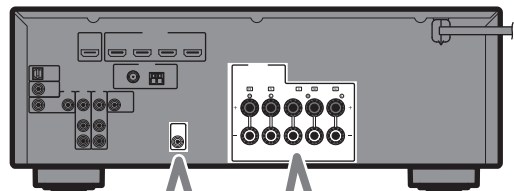
– 芯線どうしを接触させない



– 芯線を本機の金属部（背面のパネル、ネジ）に接触させない



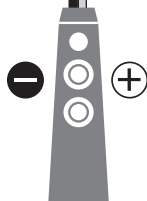
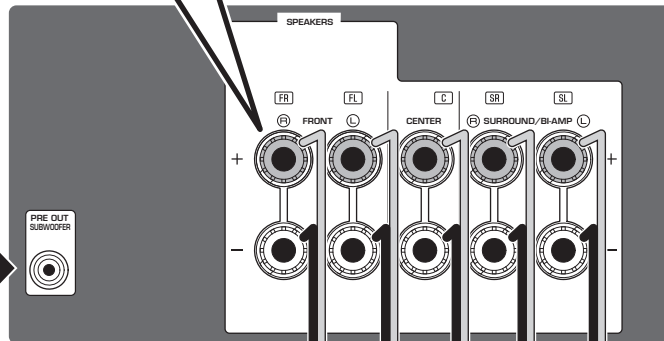
電源を入れて前面ディスプレイに「Check SP Wires」と表示された場合は、電源を切り、スピーカーケーブルがショートしていないか確認してください。



SW

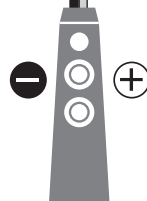
サブウーファー

アンプ内蔵のサブウーファーをご使用ください。



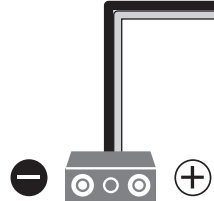
FR

フロントスピーカー
(右)



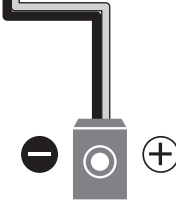
FL

フロントスピーカー
(左)



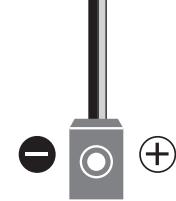
C

センタースピーカー



SR

サラウンドスピーカー
(右)



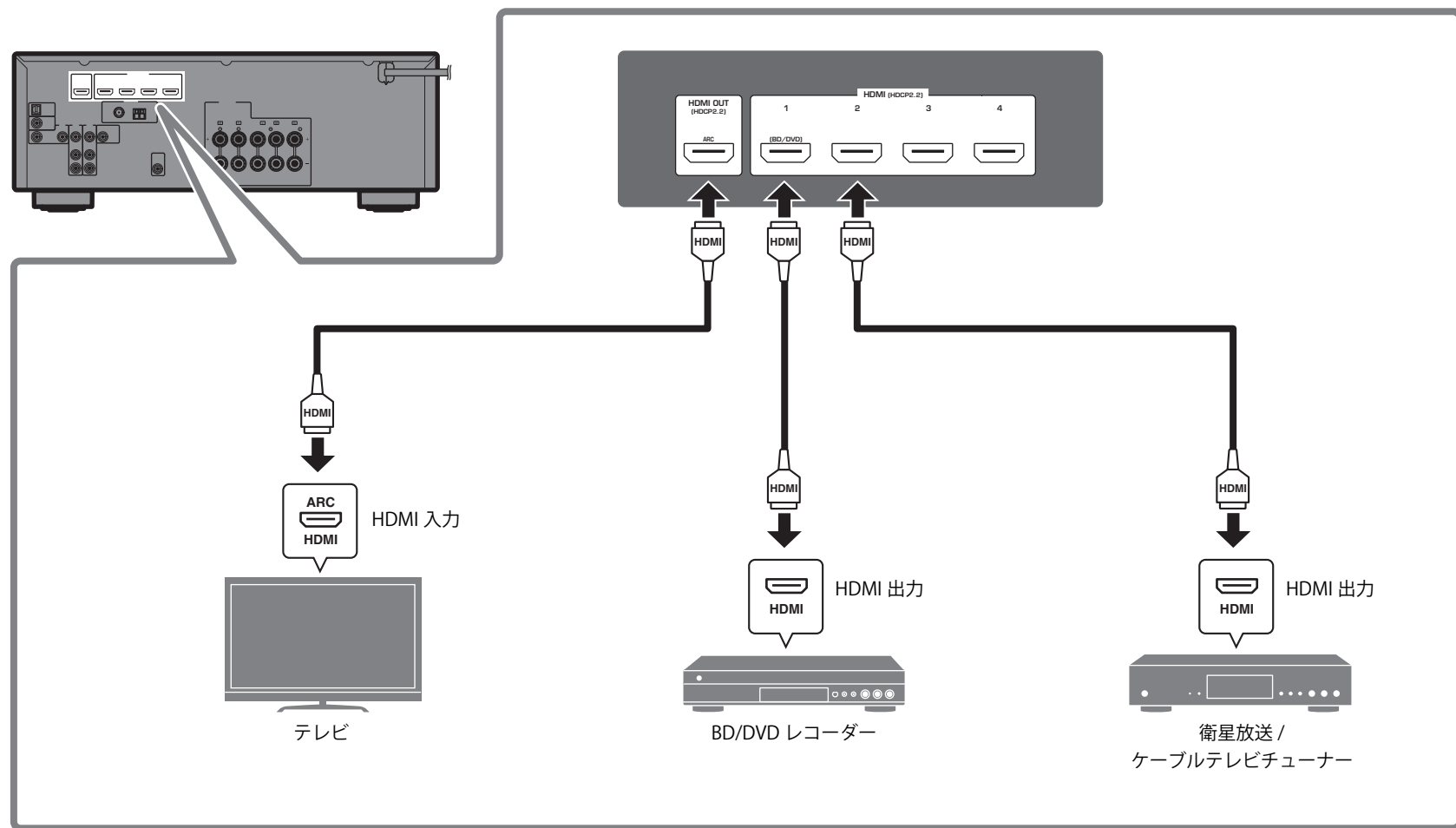
SL

サラウンドスピーカー
(左)

スピーカーの-/+端子の位置は、製品により異なります。

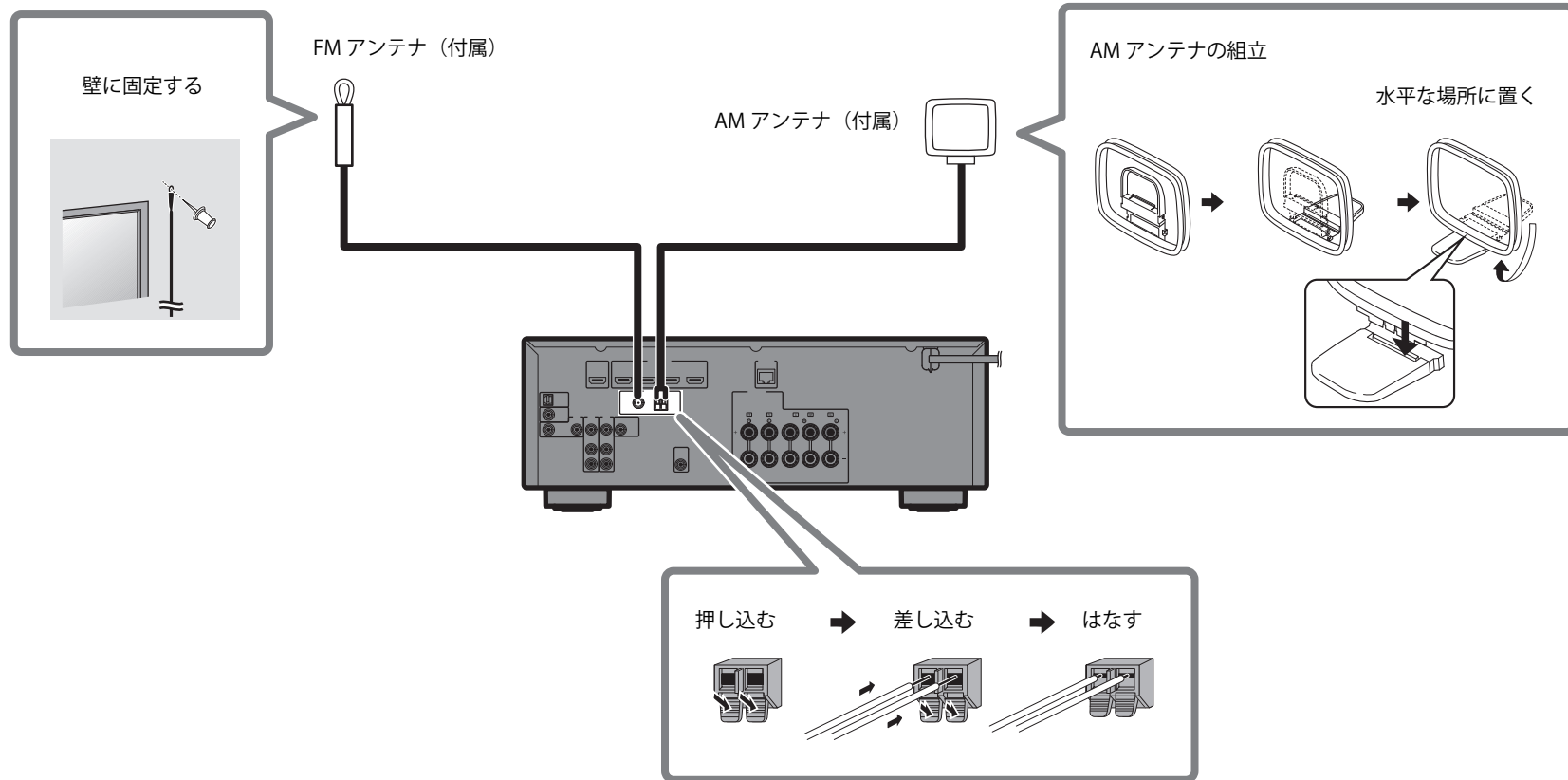
3

外部機器を接続する



4

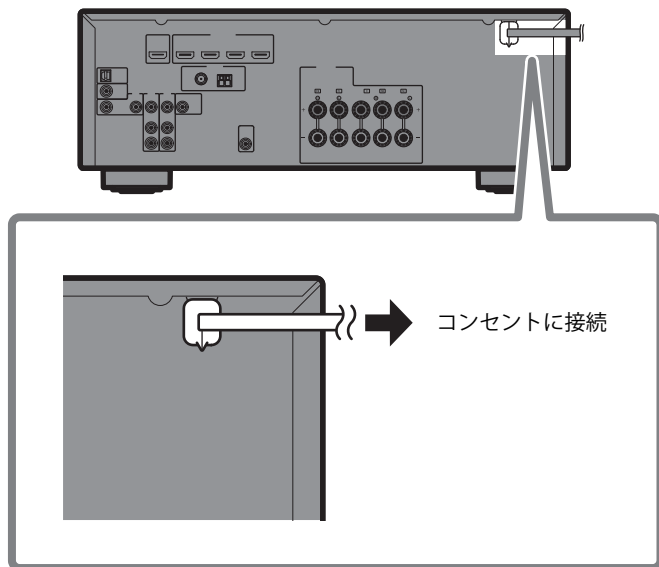
FM/AM アンテナを接続する



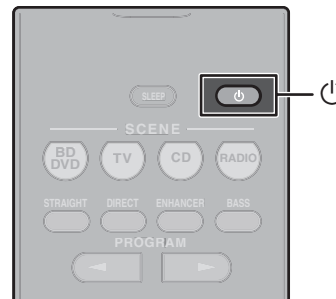
5

電源コードを接続し、本機の電源を入れる

1 電源コードをコンセントに接続する。



2 ㊤（レシーバー電源）キーで本機の電源を入れる。



3 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える。

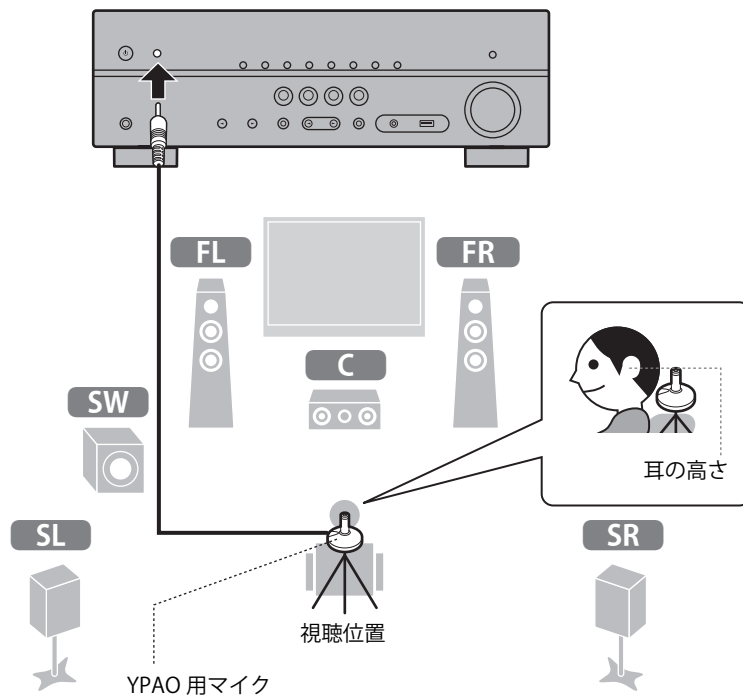
6

スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)

付属の YPAO 用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します (YPAO: Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer)。



ENTER
カーソルキー

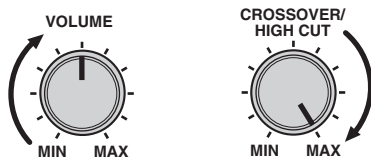


YPAO 使用時は次のことにご注意ください。

- 測定中は大きな音が出力されます。小さなお子様がいらっしゃる場合は十分にご配慮ください。
- 測定中は音量を調節できません。
- 測定中は部屋を静かに保ってください。
- 測定中は部屋の後方の隅にとどまり、スピーカーと YPAO 用マイクの間を遮らないようにしてください。
- ヘッドホンは接続しないでください。

1 サブウーファーの電源を入れ、音量を半分に調節する。

クロスオーバー周波数を調節できる場合は最大にする。



2 付属の YPAO 用マイクを視聴位置に置き、前面の YPAO MIC 端子に接続する。

テレビに次の画面が表示されます。



NOTE

YPAO 用マイクを視聴位置（耳の高さ）に置きます。三脚などをマイクスタンドとしてお使いください。三脚のネジを使ってマイクを固定できます。

3 ENTER キーを押す。

10 秒後に測定が始まります。所要時間は約 3 分です。
測定が終わると、テレビに次の画面が表示されます。



NOTE

エラーメッセージ（E-1 など）や警告メッセージ（W-2 など）が表示された場合は取扱説明書「スピーカー設定を行う」の「YPAO のエラーメッセージ一覧」または「YPAO の警告メッセージ一覧」をご覧ください。

4 測定結果を確認し、ENTER キーを押す。

5 カーソルキー（◀/▶）で「保存」を選び、ENTER キーを押す。

6 YPAO 用マイクを本機から取り外す。

これでスピーカー設定は完了です。

再生する

ここからは、BD/DVD 再生やラジオ放送受信など、基本的な操作をご案内します。ほとんどの機能はリモコンで操作できます。

基本的な操作

本機には、さまざまな音場プログラムやサラウンドデコーダーが備わっています。視聴する内容に応じて、好みのサウンドを選べます。

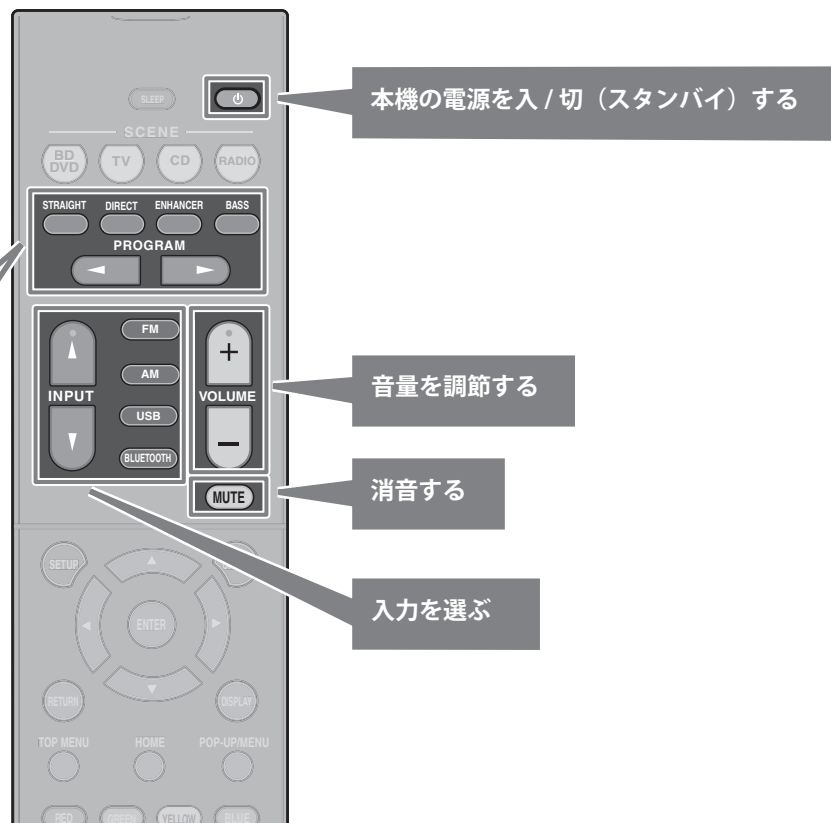
STRAIGHT：音場効果をかけずに、オリジナルチャンネルの音声をお楽しみいただけます。

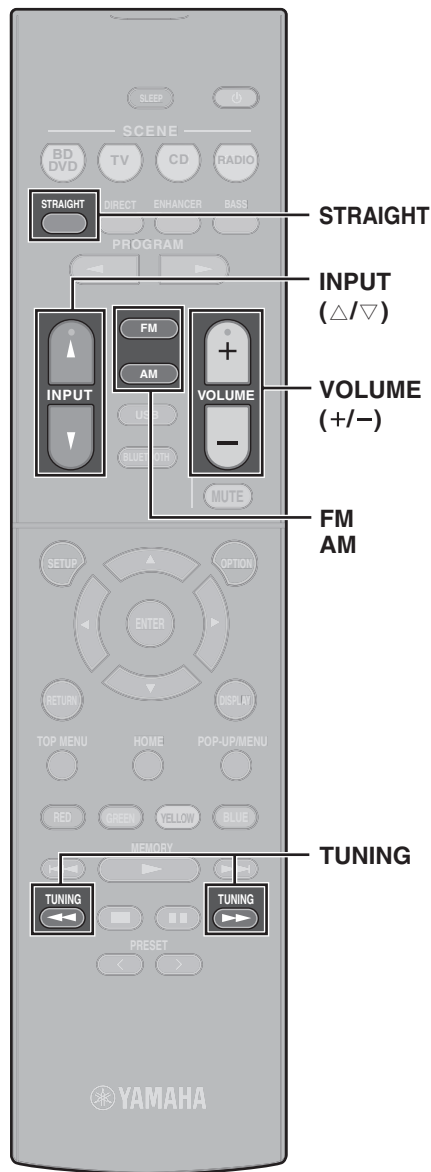
DIRECT：最低限再生に必要な機能を除き、各種の回路（前面ディスプレイなど）が停止されます。これにより原音により忠実な音質で再生できます。

ENHANCER：BLUETOOTH 機器や USB 機器などの圧縮音源に音の深みと広がりを加えます。

BASS：より豊かな低音をお楽しみいただけます。

PROGRAM（◀/▶）：映画、音楽に適した音場プログラム、ステレオ再生やサラウンドデコーダーを使った再生を選びます。





BD/DVD を再生する

サラウンド音を体感するために、マルチチャンネル音声 (5.1ch 以上) が収録されている BD/DVD の再生をおすすめします。

- 1 BD/DVD レコーダーの電源を入れる。
- 2 INPUT (Δ/▽) キーを繰り返し押して、本機の入力を「HDMI1」に切り替える。
接続した機器によっては、「BD Player」などのように名称が表示されます。



- 3 BD/DVD レコーダーで BD/DVD を再生する。
- 4 STRAIGHT キーを押して「STRAIGHT」を選ぶ。

NOTE

「STRAIGHT」(ストレートデコード) を選ぶと、ディスクに収録されている各チャンネルの音声は各スピーカーからそのまま出力されます。本機の音場効果はかかりません。

- 5 VOLUME キーで音量を調節する。

NOTE

スピーカーから音が出ない場合や、音の出ないスピーカーがある場合は、「取扱説明書」の「困ったときは」をご覧ください。

FM/AM ラジオを聴く

- 1 FMキーまたはAMキーでFM/AMを切り替える。

入力が「TUNER」に切り替わり、選択中の周波数が表示されます。



- 2 TUNING キーで周波数を切り替える。

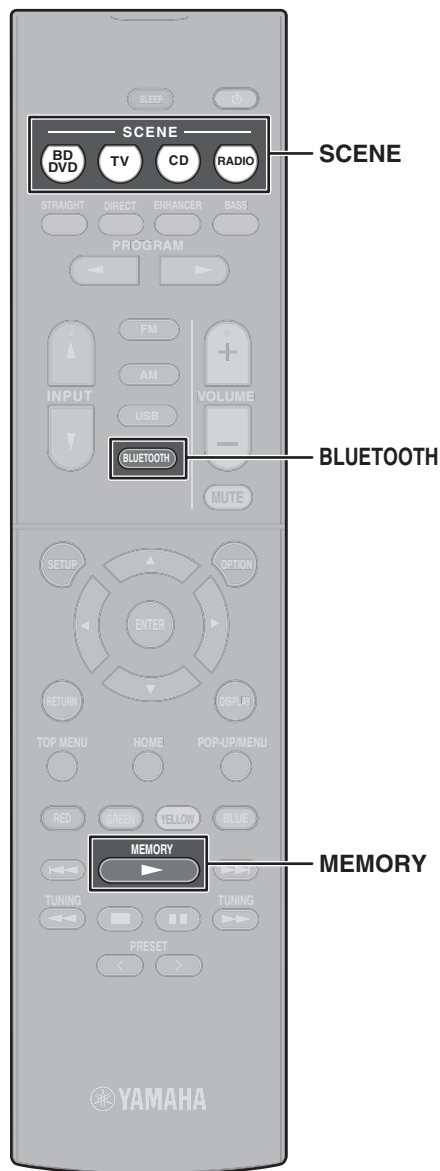
約 1 秒押し続けると、自動で選局します。



ラジオ放送受信中は「TUNED」が点灯します。
ステレオ放送の場合は「STEREO」も点灯します。

NOTE

本機は FM 補完放送 (ワイド FM) に対応しています。



SCENE 機能

SCENE キーに登録している入力選択と設定を、SCENE キーを押してワンタッチで切り替えます。本機がスタンバイのときに SCENE キーを押すと、電源もオンになります。

購入時の SCENE キーには、以下の設定が登録されています。

SCENE キー	BD DVD	TV	CD	RADIO
入力	HDMI1	AUDIO1	AUDIO2	TUNER
音場プログラム	MOVIE (Sci-Fi)	STRAIGHT	STRAIGHT	STEREO (5ch Stereo)
ミュージックエンハンサー	オフ	オン	オフ	オン
シーン連動	オン	オン	オフ	オフ

SCENE キーの登録内容を変更する

購入時の SCENE キーの登録内容を、お好みに応じて変更できます。

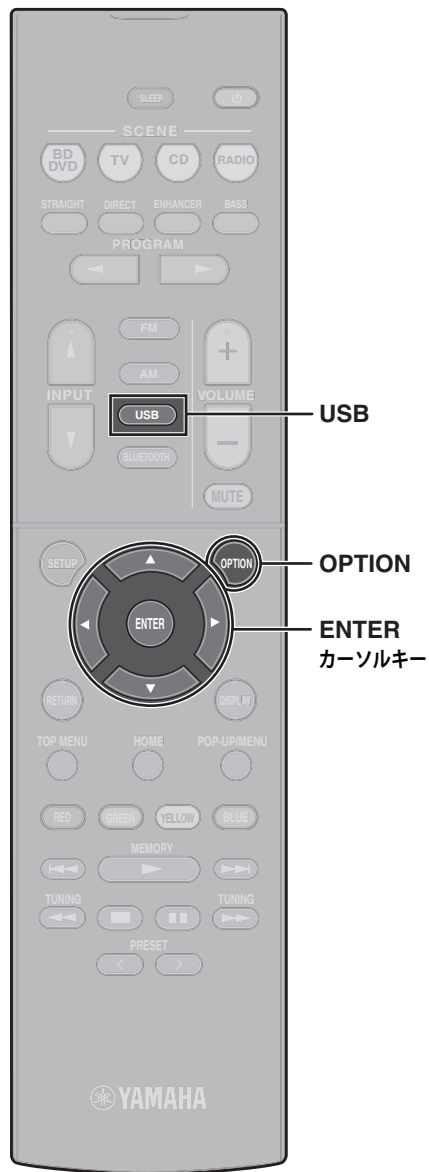
1. 入力ソースを再生する。
2. 音場プログラムやミュージックエンハンサーなどの機能を設定する。
3. 前面ディスプレイに「SET Complete」と表示されるまで SCENE キーを押し続ける。

Bluetooth 機器の曲を再生する

- 1 **BLUETOOTH** キーを押し、入力を「Bluetooth」に切り替える。
- 2 **MEMORY** キーを 3 秒以上押す。
前面ディスプレイに「Searching…」と表示されます。
- 3 **Bluetooth** 機器を操作し、使用可能なデバイスのリストから本機（本機の名称）を選ぶ。
パスキー（PIN）の入力を要求されたら、数字の「0000」を入力します。
Bluetooth 機器と接続すると、本機の前面ディスプレイの※インジケーターが点灯します。
- 4 **Bluetooth** 機器を操作して曲を再生する。

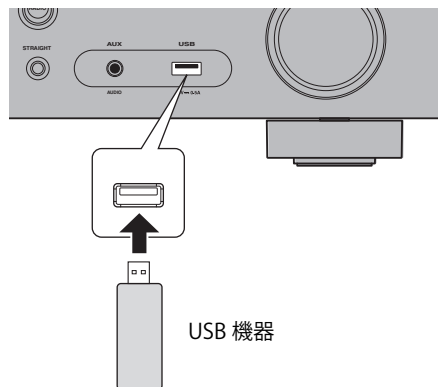
NOTE

本機で再生している音声を Bluetooth スピーカー / ヘッドホンに送信して聴くことができます（Bluetooth 入力のときを除く）。詳しくは、取扱説明書の「本機の音声を Bluetooth 対応スピーカー / ヘッドホンで再生する」をご覧ください。



USB 機器の曲を再生する

1 USB 機器を USB 端子に接続する。



NOTE

USB機器は直接本機のUSB端子に接続してください。延長ケーブルなどは使わないでください。

2 USB キーを押し、入力を「USB」に切り替える。

テレビにブラウズ画面が表示されます。

3 カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーを押す。

曲を選ぶと再生が始まり、再生画面が表示されます。

オプションメニューの基本的な操作

オプションメニューの基本的な操作方法を説明します。オプションメニューを使うと、再生中のソースに合わせて本機の再生関連の機能を設定できます。

1 OPTION キーを押す。



オプションメニューはテレビ画面にも表示されます。

2 カーソルキーで設定項目を選び、ENTER キーを押す。

3 カーソルキーで設定値を選ぶ。

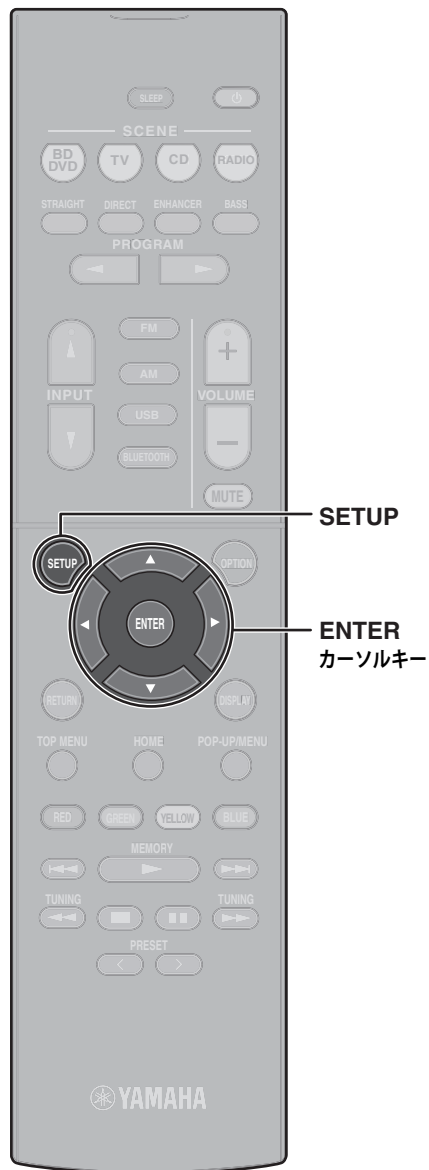
4 OPTION キーを押す。

詳しくは、取扱説明書の「再生ソースに合わせて設定する（オプションメニュー）」をご覧ください。

設定メニューの基本的な操作

設定メニューの基本的な操作方法を説明します。設定メニューを使うと、本機の機能を詳細に設定できます。

1 リモコンの SETUP キーを押す。



2 カーソルキーでメニューを選び、ENTER キーを押す。

3 カーソルキーで設定項目を選び、ENTER キーを押す。

4 カーソルキーで設定値を選び、ENTER キーを押す。

5 SETUP キーを押す。


詳しくは、取扱説明書の「機能設定を変更する（設定メニュー）」をご覧ください。

困ったときは

で使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、最初に次の項目をご確認ください。

- 本機、テレビ、再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の電源プラグがコンセントにしっかりと接続されている。
- 本機、サブウーファー、テレビ、再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の電源が入っている。
- 各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

対処しても正常に動作しない、または以下のトラブル以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または取扱説明書記載の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

症状	原因	対策
電源が入らない。	保護回路が 3 回続けて作動した。 この状態で電源を入れようとすると、本体前面のスタンバイ表示が点滅します。）	製品保護のため電源が入らなくなります。ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください。
電源がすぐに切れてしまう	スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れた。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください（10 ページ）。
本機が操作を受け付けない	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	本体前面の  （電源）キーを 10 秒以上押して本機を再起動してください（問題が解決しない場合は、コンセントから電源コードのプラグを抜き、再度差し込んでください）。
音が出ない	別の入力を選択されている。	入力選択キーで正しい入力を選んでください。
	本機で再生できない信号が入力されている。	一部のデジタル音声フォーマットは本機で再生できません。入力信号の音声フォーマットは、オプションメニューの「信号情報」で確認できます（20 ページ）。詳しくは、取扱説明書の「映像 / 音声信号情報を確認する」をご覧ください。

症状	原因	対策
特定のスピーカーから音が出ない	再生ソースに該当チャンネルの信号が含まれていない。	オプションメニューの「信号情報」で、入力信号のチャンネル数を確認できます（20 ページ）。詳しくは、取扱説明書の「映像 / 音声信号情報を確認する」をご覧ください。
	該当スピーカーを使用しない音場プログラムやデコーダーが選択されている。	設定メニューの「テストトーン」を「オン」に設定して、スピーカー出力を確認してください（21 ページ）。詳しくは、取扱説明書の「テストトーンを出力する」をご覧ください。
	該当スピーカーの音声出力が無効になっている。	YPAO を実行してください（15 ページ）。 設定メニューの「構成」で該当スピーカーのサイズまたは有無を設定してください（21 ページ）。詳しくは、取扱説明書の「スピーカー設定」をご覧ください。
サブウーファーから音が出ない	再生ソースに LFE や低音信号が含まれていない。	BASS キーを使ってエクストラベースを有効にしてください（17 ページ）。
	サブウーファーの出力が無効になっている。	YPAO を実行してください（15 ページ）。 設定メニューの「サブウーファー」を「使用する」に設定してください（21 ページ）。詳しくは、取扱説明書の「サブウーファーの有無を設定する」をご覧ください。
映像が出ない	本機で別の入力を選択されている。	入力選択キーで入力（ビデオ機器）を選んでください。
	テレビで別の入力を選択されている。	テレビ側の入力を本機からの映像に切り替えてください。
HDMIで接続したビデオ機器の映像が出ない	本機が非対応の映像信号（解像度）を入力している。	入力中の映像信号（解像度）については、取扱説明書の「映像 / 音声信号情報を確認する」をご覧ください。本機が対応している映像信号については、取扱説明書の「対応している HDMI 信号」をご覧ください。
	テレビが著作権保護（HDCP）に対応していない。	テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。 HDCP 2.2 対応機器が必要なコンテンツを再生する場合、テレビと再生機器の両方が HDCP 2.2 に対応している必要があります。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中区中沢町10-1

Manual Development Group
© 2017 Yamaha Corporation

2018 年 2 月発行 KS-A0

ZZ78960